

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	白石町立福富小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々との交流や地域の方への働きかけ等を通して、地域の中で育まれている学校の存在を児童および職員が強く意識することができた。</li> <li>・学校での取組や児童の様子を積極的に家庭や地域に向けて学校便りやホームページ等で発信することができた。</li> <li>・新学習指導要領(算数)の県研究指定を受け、自分の考えを伝え合う「なるほどタイム」の在り方を探った。今後は考えの根拠を元に伝え合うようにしていきたい。</li> </ul>
2 学校教育目標	<p>ふるさと福富を愛し、誇れる子どもの育成</p> <p>～「考える 思いやる きたえる」子ども～</p>
3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 学力の定着</li> <li>② 仲間意識の向上</li> <li>③ 挨拶・返事の徹底</li> </ol>

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイルドの成果指標を達成した教師70%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内学力向上研修により取組の促進を図る。 ・基礎学力テスト、検定テストを実施し形成の評価を充実させ個別指導に生かす。	A	・マイプランの成果指標を達成した(できそうである)と自己申告した教職員は87%であった。 ・基礎学力テストを実施した。結果を共有し、級外を含めて個別指導に当たすることで、学力の向上を図ることができた。	A	・マイプランの成果指標を達成した(できそうである)と自己申告した教職員は90%であった。 ・学期ごとの基礎学力テストやドリルタイム確実に実施し、学校全体で個別指導に当たすることで、学力の向上を図ることができた。 ・佐賀県学習状況調査においても、高学年が佐賀県平均を上回ることができた。	A	・成果指標70%に対し、中間評価時点で87%である。十分に目標クリアできていると思う。次は、目標をもう一つ上げて頑張ろう。次は、目標をもう一つ上げて頑張ろう。 ・コロナ禍の中でも、生活・学力・友達とのつながりをしっかり引き出してくださったと思う。
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○算数アンケートにおいて「算数の学習はよく分かる・だいたい分かる」と回答した児童70%以上	・自分の考えをもち、伝え合う「なるほどタイム」を通して、自分の考えを深めさせる。	A	・7月に行ったアンケート調査では、肯定的に回答した児童は89.6%であった。 ・校内授業研を8回行い、「なるほどタイム」に対する理解を職員が深めることができた。	A	・1月に行ったアンケート調査では、肯定的に回答した児童は96%であった。 ・公開授業を始め、全学級で研究授業を行うことで、目的意識をもって友達と考えを伝え合いながら学び合う児童の育成に努めることができた。	A	・成果指標70%に対し、中間評価段階で89.6%である。十分に目標クリアできている。校内授業研を8回行い、「なるほどタイム」に対する理解を職員が深めることができたことは素晴らしいと思う。 ・今後も分かる授業をしていきたい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケート(年2回実施)において肯定的な回答をした児童生徒70%以上	・人権集会や道徳に関する振り返りやアンケートの実施 ・保護者や地域の方と連携した「ふるさと福富大家族フェスティバル」の実施	B	・道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童は77.8%であった。 ・コロナ感染防止の観点でふるさと福富大家族フェスティバルは中止となった。保護者や地域の方が参加したふれあい道徳を12月に計画している。	A	・道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童は84.3%であった。また、ふれあい道徳を12月に行い、保護者や地域の方々に参加してもらった。 ・人権集会では、学級代表による人権標語の発表や講師の方より講話を聞き、人権について深く学習することができた。	A	・成果指標に対し、中間評価段階での進捗状況の見通しですべてに数値をクリアしている。Aでよいと思う。 ・人権集会はとてもよい取組だと思います。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていたと回答した教員70%以上	・2か月毎に「こころのお天気」アンケートを児童に実施する。 ・「気になる子」に関わる情報交換を毎週水曜日の放課後に行う。	A	・「こころのお天気」によるアンケートは、計画的に継続して実施している。アンケートの結果や日頃の児童の様子を観察し、全職員で定期的に情報交換を行うことができた。必要に応じてSCを活用したり、ケース会議を行ったりすることができた。	A	・「こころのお天気」によるアンケートは、計画的に継続して実施した。アンケートの結果や日頃の児童の様子を観察し、全職員で定期的に情報交換を行うことができた。必要に応じてSCを活用したり、ケース会議を行ったりすることができた。また、全職員が組織的対応ができていたと回答した。	A	・子どもたちに寄り添った指導をして下さっていることは、親の立場からも心強い。 ・みんなが力を伸ばすことができる仕組みが整っているのもありがたい。
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎キャリアパスポートにおいて自らの夢や目標に対して前向きな考えを記入した児童を80%以上にさせる。	・キャリアパスポートを活用するとともに、全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設け、自分の夢、目標をもつことができるようにする。	A	・コロナ感染防止の観点から、学校行事等は予定通りに実施できていないが、学期初めのキャリアパスポートには、ほとんどの児童が前向きな目標を立てることができていた。今後は行事ごとに改めて振り返りを記入させ、活用していきたい。	A	・キャリアパスポートを活用することができた。各教科等や学校行事に取り組みるときには、めあてについて児童に考えさせたり、振り返りの際に自分の成長を実感させる機会を設定したりする活動を行った。自分の夢や目標をもつことができた児童がほぼ100%となった。	B	・素直で優しく真面目に取り組む子どもたちが多くいるように思う。思いやりと協調性がある。 ・運動会などの行事を子どもたちが楽しく行うことができるように指導して下さっている。生き生きと活動している様子を見て、とても感動する。
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の児童生徒60%以上 ②元気の挨拶ができる児童を目標し、挨拶運動や日常の挨拶指導を充実させる。	・始業前や業間、昼休みの時間の外遊びを奨励し、声かけを行う。 ・体育委員会で学年グループごとのスポーツイベントを企画・運営する。 ・日常的な挨拶の励行を学校が一体となって行うとともに家庭にも呼びかける。 ・給食後の歯磨き指導の徹底を図り、保護者へも啓発をしていく。	A	・コロナ感染防止の関係で運動習慣の定着まではできていないが、外遊びができる環境にあるときは学年や男女を問わず、外遊びをする児童が多い。 ・体育的行事の延期等もあり、体育委員会主催のスポーツイベントは時期を再検討して実行する。 ・校門での朝の挨拶や一堂に会した場での挨拶はできるが、個々の挨拶については継続して言葉掛け、指導していく必要がある。 ・給食後の歯磨き指導はできているが、2学期も保護者向けの歯科講話を引き続き行いたい。	A	・始業前や業間、昼休みの時間には、学年や男女を問わず、ボールやバット等の運動用具を積極的に借りて、外で元気よく遊ぶことができた。また、縄跳び用のジャンピングボードも活用することができた。 ・体育委員会主催のイベントはできなかったが、感染防止を考慮し、工夫した内容を検討して実行する。 ・寒い時期には遅れる体育委員もいたが、週1回の挨拶運動を継続することができた。特に下学年ほど元気よく気持ちのよい挨拶ができていた。「自分から挨拶」を行っている項目の自己評価は高かった。 ・給食後の歯磨き指導は、継続してできた。1年生児童、保護者対象に歯科校医による歯科講話を実施できた。	A	・挨拶運動(小中)の取組がよいと思う。 ・横断歩道を渡った後に、止まっている車に向かって、必ず礼をしてくれる児童がいる。 ・自力登校、マラソン大会など、全校で取り組むことができていることはよいと思う。
	○体づくりの推進	○マラソン大会やがんばるマラソン週間を設定し、体力向上や健康な体づくり意識を向上させる。	・体育委員会でマラソン週間やマラソン大会を企画・運営する。 ・マラソンがんばりカードを作成し、目標をもって体づくりに取り組ませる。	B	・コロナ感染防止の観点から、体育学習内容の制限や運動会の延期もあったが、2学期も引き続き体づくりに目を向けさせたい。 ・体育的行事が2学期は、個々の健康を考慮しながら体づくりに取り組ませたい。	A	・延期になった運動会では、コロナ感染拡大防止の面からプログラムを見直し、短縮した大会を企画・運営することができた。また、マラソン週間やマラソン大会では、子どもたち一人一人にめあてをもって体づくりに取り組ませることができた。	A	・成果指標でマラソン大会やがんばるマラソン週間を設定することが挙げられていたが、コロナの影響で思うような活動ができなかったと思われる。代替の内容に対し、しっかりと対応できているのであれば、A評価でよいと思う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日(金曜日)の設定 ・学校閉庁日の設定	B	・学校定時退勤日を毎週金曜日に設定し、施錠時刻を示すことで意識化を図った。 ・学校閉庁日を年間6日間設定し、そのうち5日間を夏季休業中に実施した。	B	・学校定時退勤日には、互いに言葉掛け合うことで意識化できつつあり、時間外在職時間も少しずつ短くなってきている。 ・学校閉庁日は冬季休業中も実施できた。	B	・コロナ禍の中であるので、今後もいろいろと見直ししていく必要があると思う。
	○学校行事等の精選、校務等の効率化の促進	○学校行事等の見直しを行い、削減、縮小等を5項目実施する。	・学校行事については、項目ごとに一覧表を作成し、削減・縮小できるものを三部会で提案し、削減・縮小するための手立てを考え、実行する。	B	・子どもを知る会の計画的な実施と併せて、必要に応じてケース会議も実施できた。 ・特別支援教育について理解し、児童の教育ができていたと答えた職員が95%であった。	A	・学校行事については、通常とは異なる今年度の状況等を踏まえ、内容の検討や規模縮小を行っていった。可能な限り中止にすることは避け、子どもたちの活動の充実を図ることができた。	A	・新型コロナウイルス関係で大きな行事ができなかったり、規模を縮小したりすることが多くあったが、校長先生をはじめ、先生方の頑張りで、運動会も修学旅行も他校より充実していたと思う。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○地域に開かれた学校づくり	○コミュニティ・スクールの実践 ○家庭、地域との連携 ○学校からの情報発信	○小中合同による学校運営協議会を年4回開催し、会議の充実とともに小中合同の取組を通して連携を深める。	・学校運営協議会では、学校経営方針等理解を得て、地域連携団体との体験活動等を計画的に進めていく。 ・児童の学習や生活の様子を伝えるため、毎月学校便りを発行し、地域でも回覧してもらおう。	A	・コロナ感染防止の観点から地域連携団体との体験活動がほとんどできなかったが、学校運営協議会とは、学校運営方針等について理解を得ることができた。 ・学校便りを月複数回発行し、地域でも回覧することができた。また、学校HPにも随時、児童の活動の様子を掲載することができた。	A	・学校運営協議会を年間3回実施することができた。感染症対策を行いながら、実施できたことは実施し、地域の協力を得て学習効果を高めることができた。 ・感染症対応のための通常の授業参観や学級懇話会などの行事の開催数が増したが、学校便り、学校ホームページにおいて児童の様子を家庭に知らせることができた。ホームページの情報には、児童数の二倍以上の閲覧数があり、新しい情報があることを期待されていることが伺える。	A	・日頃より、子どもたちのために頑張っている先生方の姿に、本当に頭が下がる思いである。新型コロナウイルスを含め、変わっていく社会の中で学校を運営していかれることは大変な御苦労があらわれるかと思うが、これからも福富の子どもたちのため、力を尽くしていただければと思う。地域の我々もできる限りの協力したいと思う。
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員60%以上	・特別支援に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、情報共有	A	・子どもを知る会の計画的な実施と併せて、必要に応じてケース会議も実施できた。 ・特別支援教育について理解し、児童の教育ができていたと答えた職員が100%であった。	A	・子どもを知る会の計画的な実施と併せて、必要に応じてケース会議や巡回相談も実施できた。 ・特別支援教育について理解し、児童の教育ができていたと答えた職員が100%であった。	A	・成果指標60%以上に対し、中間評価時点で95%である。AというよりSでよいと思う。 ・児童一人一人に寄り添って見守りや言葉掛け、指導をして下さっていると思う。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育									
5 総合評価・次年度への展望	<p>学力の向上については、新学習指導要領(算数科)の研修指定を受け、互いの考えを伝え合う「なるほどタイム」の在り方を探ってきた。今後は、「なるほどタイム」での取組を他教科等の学習にも取り入れていきたい。</p> <p>児童の実態を把握し、職員間で情報共有を行った上で、児童一人一人の心の成長や学びの定着を支えていきたい。</p> <p>地域の方々との交流や働き掛けを通して、地域の中で育まれている学校の存在を意識し、各種活動に取り組むことができた。</p> <p>学校行事等の見直しを行い、削減や縮小を図ってきた。今後は、職員の業務の精選と効率化を図り、業務改善に取り組んでいきたい。</p>								